

令和3年第4回定例教育委員会会議録

1. 開催日時 令和3年4月15日(木)
午後2時55分～午後3時45分

2. 開催場所 柏原市教育委員会 会議室

3. 出席した委員

教 育 長	新 子 寿 一
教 育 長 職 務 代 理	山 崎 裕 行
委 員	田 中 保 和
委 員	近 藤 温 子
委 員	西 村 弥 生 子

4. 出席した職員

教 育 部 長	福 島 潔
教 育 監	中 平 好 美
教 育 総 務 課 長	栗 田 聖 子
社 会 教 育 課 長	北 西 浩 二
次 長 兼 指 導 課 長	石 田 智
事 務 局 教 育 総 務 課	井 上 敦

5. 議事案件

議案第11号 柏原市教育委員会事務局職員人事の承認について

議案第12号 令和3年度柏原市いじめ問題対応委員会の委員任命について

議案第13号 令和3年度柏原市障がい児就学支援委員会の委員委嘱について

議案第14号 令和3年度柏原市学力向上対策委員会の委員任命について

議案第15号 令和2年度中学生チャレンジテスト(1, 2年生)の結果の公表内容
について

6. 報告事項

7. 会議録の承認及び会議の要旨

新子教育長： 定刻より少し早いですが、お揃いでございますので、令和3年第4回定例教

育委員会会議を開会します。本日の会議録署名委員は、田中委員です。よろしくお願いいたします。次に、事前に送付させていただいております会議録につきまして、ご意見等ございませんか。

委員全員： なし。

新子教育長： それでは、本日の議事に入ってまいります。本日は議案が5件出ております。

どうぞよろしくお願いいたします。それでは、議案第11号について、教育総務課栗田課長より説明をお願いします。

栗田課長： ご説明申し上げます。議案第11号柏原市教育委員会事務局職員人事の承認についてでございます。本日お配りしております資料をご覧ください。1ページ目に課長級以上。2ページ目にその他職員の人事異動を記載しております。ご審議賜りますようお願いいたします。

新子教育長： ご質問、ご意見等ございましたらお願いいたします。

委員全員： 異議なし。

新子教育長： それでは、議案第11号柏原市教育委員会事務局職員人事の承認については、原案どおり承認することにいたします。次に、議案第12号について、指導課石田次長より説明をお願いします。

石田次長： 議案第12号令和3年度柏原市いじめ問題対応委員会の委員任命について指導課よりご説明申し上げます。なお3ページでは「校長会后決定」としている部分もございましたが、この度決定しましたので、本日差し替えたものを机上に置かせていただいております。柏原市いじめ問題対応委員会は、柏原市の小学校及び中学校におけるいじめ防止のための対策に関する基本的な方針や、いじめに対する適切な措置に関することを調査する教育委員会の附属機関で、今年度もご示唆をいただきたいと考えております。柏原市いじめ問題対応委員会条例 第3条第2項により別紙名簿の方々に任命したいと考えております。ご審議よろしくお願いいたします。

新子教育長： ご意見、ご質問等よろしいでしょうか。

委員全員： なし。

新子教育長： ないようでございますので、議案第12号令和3年度柏原市いじめ問題対応委員会の委員任命について、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員： 異議なし。

新子教育長： それでは、議案第12号令和3年度柏原市いじめ問題対応委員会の委員任命については原案どおり承認することにいたします。つづきまして、議案第13号について引き続き指導課石田次長よりお願いいたします。

石田次長： 議案第13号令和3年度柏原市障がい児就学支援委員会の委員委嘱について指導課よりご説明申し上げます。なお5ページでは「校長会后決定」としている部分もございましたが、この度決定しましたので、本日差し替えたものを机上に置かせていただいております。柏原市障がい児就学支援委員会は、障がいのある児童生徒に対する介助員の配置や就学相談を主に調査審議を行う場でございます。柏原市障がい児就学支援委員会規則第3条第2項により、別紙名簿の方々を委嘱したいと考えております。ご審議よろしくお願いいたします。

いたします。

新子教育長： ご意見、ご質問等あればお願いいたします。

委員全員： なし。

新子教育長： ないようでございますので、議案第13号令和3年度柏原市障がい児就学支援委員会の委員委嘱について、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員： 異議なし。

新子教育長： それでは、議案第13号令和3年度柏原市障がい児就学支援委員会の委員委嘱については原案どおり承認することにいたします。つづきまして、議案第14号について引き続き指導課石田次長よりお願いいたします。

石田次長： 議案第14号令和3年度柏原市学力向上対策委員会の委員任命について指導課よりご説明申し上げます。なお7ページでは「校長会後決定」としている部分もございましたが、この度決定しましたので、本日差し替えたものを机上に置かせていただいております。柏原市学力向上対策委員会は、柏原市の小学校及び中学校に就学する児童・生徒の学力向上についての調査審議を行う場で、今年度もご示唆をいただきたいと考えております。柏原市学力向上対策委員会規則第2条第2項により別紙名簿の方々を任命したいと考えております。ご審議よろしくお願いいたします。

新子教育長： ご意見、ご質問等あればお願いいたします。

委員全員： なし。

新子教育長： ないようでございますので、議案第14号令和3年度柏原市学力向上対策委員会の委員任命について、原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員： 異議なし。

新子教育長： それでは、議案第14号令和3年度柏原市学力向上対策委員会の委員任命については原案どおり承認することにいたします。つづきまして、議案第15号について引き続き指導課石田次長よりお願いいたします。

石田次長： 議案第15号令和2年度中学生チャレンジテスト（1、2年生）の結果の公表内容について指導課よりご説明申し上げます。別添の冊子をご覧ください。それでは前から順番に結果の説明に移らせていただきます。

まず表紙をめくっていただき、裏面の調査目的については昨年度と変わっておりません。教科につきましては、1年生は3教科、2年生は5教科実施されたのですが、社会科と理科はAB問題の選択制となっておりますので、この後にお示しする結果につきましては、その両方の平均正答率を足して2で割った数値にしていることをご承知おき願います。

それでは各教科の結果に入まいります。印字が抜けておりますが、表紙が1ページ、その裏が2ページとなり、教科の結果は3ページからになります。まず1年生の国語の結果になります。平均正答率は大阪府を1.7%上回っており、区分で見ましても、学習指導要領の領域等において全て大阪府を上回り、特に「書くこと」が良好な結果でした。過去3年間の比較で見ましても、右上がりに伸びており、この3年間で最も良い結果となりました。得点別分布を見ますと、40点未満の割合が比較的少なく70点以上の割合が多い傾向があり、これも良い部分だと言えます。無解答率も大阪府より低く、この傾向は3

年間続いております。

次に4ページの数学ですが、平均正答率は大阪府を1.9%上回り、同じく大阪府を超えた一昨年よりも更に良い結果でした。区分で見ましても、「数学的な見方や考え方」以外は全て大阪府を上回っております。得点別分布においても国語と同様に40点未満が少なく、75点から80点、また85点から90点にかけてが特に多いことがわかります。無回答率も府より低い傾向があります。

5ページは英語になります。平均正答率は大阪府を1.1%上回り、過去3年間を見ますと、右上がりに伸び、この3年間で最も良い結果でした。区分で見ますと、「聞くこと」や「読むこと」の領域は大阪府を上回りましたが、「書くこと」や「外国語表現の能力」がやや下回っているのが課題であります。得点別分布では、35点未満の生徒が少なく95点から100点という満点に近い生徒が多いのも良い特徴です。なお、無解答率も大阪府より低い傾向があります。

6ページからはアンケート結果になります。多くの項目で「当てはまる」や「どちらかといえば、当てはまる」という肯定的回答が大阪府に比べて高い傾向がございます。その中で最も注目しているのは、問6の「自ら課題を見つけて、家で勉強をしている」であります。家庭学習につきましては、本市においてずっと課題になっているところですが、今回、肯定的回答が大阪府を上回っており、全体的な結果も近年で最も良かったことを考えますと、平均正答率と家庭学習にはある種の相関関係があるように思われます。その他、問4を見ますと、図書館の資料やインターネットの調べ学習は大阪府に比べて少ない傾向が見えますが、この度一人一台の端末が整備されましたので、今後は伸びていくのではないかと考えております。また問8の携帯電話やスマートフォンの使用時間につきましては、やや大阪府より長い傾向がありますが、所有率は低いことがわかります。

8ページからは2年生になります。まず国語ですが、平均正答率は大阪府を0.7%下回りました。区分で見ますと、「書くこと」や「書く能力」は大阪府を超えたのですが、「記述式」問題の正答率は最も府と開きがありました。同一生徒集団で経年比較しますと、1年次より少し下がっているのがわかります。レーダーチャート及び得点別分布を見ますと、大阪府と概ね同じ傾向があることがわかります。無解答率はわずかに大阪府より高い値でした。

続く9ページの社会につきましては、平均正答率は大阪府より0.4%下回りました。社会と理科につきましては、1年生次には調査がなかったため、同一生徒集団の経年比較はございません。区分やレーダーチャート、得点別分布、無解答率、どれを見ましてもほぼ大阪府と同じ傾向であるのがわかります。国語と同様に「記述式」問題が最も大阪府と開きがあるのが課題であります。

10ページは数学になります。平均正答率は3.6%大阪府を下回り、今回の調査で最も課題のある教科になりました。区分も全て大阪府を下回り、同一生徒集団での経年比較で見ましても下降傾向になっています。また、レーダーチャートもひと回り小さい形になっているのがわかります。得点別分布を見ますと、30点未満の生徒が多く、反対に75点以上が少ないのが見て取れます。

11 ページは理科になります。平均正答率は大阪府を 0.4 % 下回りましたが、区分やレーダーチャート、得点別分布、無解答率、すべてが大阪府と同じ傾向だと言えます。やや 30 点未満の生徒が多いのが気になるところであります。

12 ページが最後で英語になります。数学と同様に今回の調査で課題が見られた教科であります。平均正答率は大阪府を 3.1 % 下回り、同一生徒集団で経年比較しても下がり気味です。区分を見ますと、「聞くこと」の領域はほぼ大阪府並みでしたが、あとは全体的に下回っています。得点別分布を見ますと明らかに 50 点未満の生徒が多く、80 点以上が少ないのが見て取れ、これが平均正答率の低さの一因かと思われます。

13 ページからはアンケート結果になります。問 2 の「授業中、自分の考えや意見を伝える場面がある」に対して「当てはまる」の回答や、問 3 の「授業中、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりしている」に対しての肯定的回答、また問 5 の「授業中、間違っても笑われない」に対しての肯定的回答が大阪府より高いのは良い傾向だと思われます。しかしやはり注目は、問 6 の「自ら課題を見つけて、家で勉強をしている」に対して、明らかに 1 年生より肯定的回答が少なく、大阪府より低いことであります。平均正答率が全教科大阪府を上回った 1 年生に対して全てが下回った 2 年生との違いはやはり家庭学習の習慣づけが大きいのではないかと推察されるところです。また問 8 の携帯電話やスマートフォンの使用時間は、むしろ大阪府より短い傾向であり、所有率も低いことがわかっており、今回の調査結果だけで考察すれば、この項目と正答率の関連性は低いと言えるかもしれません。

15 ページからは教科ごとに課題の見られた問題について掲載してあります。少しだけ取り上げますと、16 ページの 2 年生の国語の問題につきましては、職業体験のお礼状を友人からアドバイスをもらい書き換えたという設定で、それはどんなアドバイスだったのかを答えるという問題ですが、2 つの文を読み比べて、どこに違いがあるかを見つけ、内容の違いから逆にアドバイスを推測して書かなければならず、授業の中で、条件をつけて自分の意見を書くような活動を取り入れていく必要があると思われます。20 ページの理科の問題につきましては、コツメカワウソとアメリカンビーバーの目のつき方の違いによる見え方の特徴を簡潔に説明するというもので、肉食動物と草食動物を分けるだけでなく、会話文と資料を読み、それらの情報と既知の情報とを結び付けて説明するような活動を、授業の中で経験させていく必要があります。

22 ページの英語の問題につきましては、スピーチを読み、その内容から分かることを答えるというもので、問いである留学生アンの誕生パーティーにいた人数はイの 6 との誤答が最も多くありました。確かに文を読み取っていくとパーティーを企画した者と招待した者の合計は 6 人ですが、パーティーには主役であるアンも当然いますので、正答はアの 7 人となります。一見ひっかけ問題のようですが、質問の意味を冷静に捉えて回答するという力が必要だと思われます。その他の教科の問題においても知識として知っているだけでなく、その知識をもとに自分自身で説明したり発信したりする力、つまり学習指導要領においても重点とされる「言語能力」を求められるということが、わかります。そして言うまでもなく、それらは日常の授業の中で実際にやっていないとテストで答えられませ

るので、教員は、子どもたちがこのような問題に答えることができるような授業づくり、近年よく言われる「身につけさせたい力」から後ろ向きに授業を組み立て、その力が身につくような活動を授業の中に取り入れていくことが大切になってきます。そのようなことを踏まえ、最後の23ページからは、今後の取組みとして、教育委員会と学校がすべきこと、そして各家庭にお願いすることという点についてまとめております。先月報告いたしました小学校を対象とした「かしわらっ子はぐくみテスト」の結果からの考察との関連付けも図りながら、一人一台整備した端末を中心としたICTの有効な活用を前面に出すように書き換えております。

説明は以上でございます。ご審議よろしくお願いたします。

新子教育長： ご意見、ご質問等あればお願いたします。

山崎委員： 2ページのところですが、このチャレンジテスト自体が入試における評定の公平性の担保に資するということなので、あまり得点の比較はしたくはないのですが、(5)の返ってきたテストの点数や内容を見て、そのうえで自分の学習到達状況がどれぐらいか、あるいはどんな目標を持つか、意欲を高めることはとても大事だと思います。今次長のご説明のとおりですけど、ざっと見た感じ、1年生は課題が少ないのかなと。2年生の課題が多いだろうという結果かと思います。アンケートもやはり2年生の方が少し課題があるのかなという感じがします。現在の2、3年生。特に3年生の先生も生徒も頑張っていたきたいなど。特に今年頑張って、教育委員会からもご指導いただきますようお願いしたい。お話を聞いてそう思いました。

23ページ、一番最後ですが、やはりこういったテストの結果が出てきた時に、学校の取組みとか家庭にお願いすることなど、地道にやっていかないと仕方がないなど。一番上の教育委員会としての今後の取組み。大事だろうと思います。課題があった時には。どんな施策を打とうか、どんな手立てがいいだろうかと考えてやっていくことが大事だろうと思います。

1つ目の「・ICT機器の導入による情報活用能力の向上」これは今年が目玉だと思うので頑張ってくださいとして、私は2つ目の「・教員の指導力育成のために、教員が当事者意識を持ち、主体的に参加できる研修を企画・運営していく」というところで、いつもお話するのですが、どんな研修を企画・運営していくかという事を見ていきたいなと思っています。去年はどんな研修を企画・運営されたのか。今年はその反省の上にどのような研修を計画されているのか、計画があればお話を聞きたいと思っています。

それから4つめの「・優れた実践をしている教員による研修や公開授業」こうしたものを通して高い指導技術を習得できるようにする。これもとても大事なことです。若い先生が授業で勝負するという、そういう力をみんな持ってほしいなと思います。どんなことをされているかお聞きしたいのですが、例えば柏原市教育研究会等を使って教育委員会が授業研究をやっていくような、そういう風な取組みに変えていってはどうかと思っています。中学校では早くからやられていました。小学校はどうなっているのか。どんな計画なのか、あるいはどんなお考えをお持ちなのか、教えていただけたらありがたいと思います。以上です。

石田次長： 研修については記載にもありますとおり、当事者意識を持って受講することが大事だと捉えております。受講して聞くだけではなく、参加して何かを持って帰るものがある研修を中心に昨年度も組ませていただいております。特に若手の育成というのは大きな課題ですので、コロナの件もあって集合研修が難しい事情がありましたが、法定研修であるという位置づけもありますので、中止とせずあえて集まる場を設けて、初年度と2年目の違う経験の中で1年の成長を含めて討議するような研修を組み立ててまいりました。その中で当事者意識を持った本人がどのように変わっていくかということ、を昨年は意識しました。

今年度は研修担当を一本に絞って、管理職研修もミドルリーダー研修も初任者研修もつながった包括的な研修ができればと考え、早速講師の方を当たろうとしております。2点目ですが、やっと ICT 機器も揃って参りました。去年は中止、延期となっていたものをオンラインで開催できるように、早速4月のいろいろな説明会も中止せず、この部屋からライブ配信を行いました。そのような形で機器を活用して中止せずに進める事が今年の狙いでございます。

授業研究については山崎委員からずっとお話しいただいておりますように大事にしていきたいと思っております。昨年度は中学校の授業研究実践会はできなかったのですが、今年度は日程調整しているところです。小学校も学校園教育推進事業の発表は毎年しておりますので、できるだけたくさんの方が見に行けるようにしたいと思いますし、府のスクールエンパワメント事業を受けています。こちらは授業公開が前提となっておりますので必ず見ていただく機会を設けたいと思っております。また ICT を使った授業発表についても授業公開をして先進的な取り組みを出来るだけ皆さんに見ていただきたいと考えております。

新子教育長： ありがとうございます。他にご意見、ご質問はございますか。

田中委員： なかなか難しいかもしれませんが、1年生と2年生の差の原因というのはいかがでしょうか。

石田次長： 今の1年生に関しましては、小学校の時から6年間の積み上げてきた学習習慣というものはあるのかなという感じはいたします。

新子教育長： 現3年生は去年も低かったんですけど、まだ落ちてますのでね。そこが課題かなと。それぞれの学校の取組みがどうなのかというのも大きいと思うんですが。若い教師が増えてきたというのですね。柏原は人口の割に学校が多いんですが、児童生徒数は少なく、伴って教員も学校数の割に少ないです。今教師の世代的な入れ替えというところで、すごく経験の浅い教師が増えてますので、指導課で研修の中で取り組んでいかなければという矢先のコロナですので。しっかり取り組んでいきたいと思っております。

新子教育長： 他にございますか。

西村委員： 分かりやすい資料ありがとうございます。昨年度実際の授業を見に行く機会がなくて残念でしたが、今年度は見れるという事で嬉しく思います。もし今年度もコロナ等で無理なら録画したものをを見せていただけたらと思います。頑張っている先生方の状況も把握できればと思いますので。あと、この結果には特別支援の子どもの結果は含

まれていますか。

石田次長： ケースによります。同じ教室に入っていれば入っていますし、個別で授業を受けていれば含まれない場合もあります。

西村委員： その子に受けるか受けないか確認されているのですか。

石田次長： ご家庭にもご案内しております。

西村委員： コロナの影響で中2の子が、授業が中途半端で学力が伸び悩んだということはあるのですか。

石田次長： はっきりとは申し上げられませんが、若干あるのかなと感じるところです。急ぎでやらないといけなかった部分がありますので。

西村委員： 中学校の特別支援の勉強を皆さん不安に思っていると思いますので色々な手立てを考えていただければ。

新子教育長： ICTを活用する等、取り組んでまいります。他にいかがでしょうか。

近藤委員： 1年生の成績がよかったということで、慣れない中学校生活の困難な状況があった中で先生方にしっかりサポートいただいたんだなと思いました。今後大変だと思いますがよろしくお願いいたします。

新子教育長： ありがとうございます。他、よろしいでしょうか。それでは、議案第15号について、原案のとおり承認してよろしいでしょうか。

委員全員： （異議なし）

新子教育長： それでは、議案第15号令和2年度中学生チャレンジテスト（1、2年生）の結果の公表内容については、一部修正の上、承認することにいたします。本日の議事案件は以上でございます。

（社会教育課から成年年齢引き下げ後の成人式について、第3時柏原市生涯学習推進計画について報告あり）

以上で、第4回定例教育委員会会議を閉会いたします。

本教育委員会会議の議事の経過に相違ないことを証するためにここに署名する。

令和 年 月 日

柏原市教育委員